

令和2年度

施策評価表(令和元年度の実績評価)

記入年月日

令和 2 年 6 月 3 日

施策No.	政策名	みんなで築く自治のまちづくり	主管課	生活環境課	主管課長名	佐谷 智
6-1	施策名	市民協働のまちづくり	関係課	秘書広報課、総務課、生涯学習課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	市民	市民	①桜川市人口	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197
実績値					41,278	40,483	39,692			
						見込値				
						実績値				
						見込値				
						実績値				
的		施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
		市民と行政が情報を共有し、協働によるまちづくりを実践している。	①行政の情報が十分に提供されていると感じている市民の割合	%	目標値	9.0	10.5	12.0	13.5	15.0
実績値					8.3	6.6	7.3			
②行政が行うまちづくり活動に継続的に参加している市民の割合			%	目標値	10.0	12.0	14.5	17.0	20.0	
				実績値	8.9	7.3	11.6			
③地域の活動に参加している市民の割合			%	目標値	35.5	39.0	42.5	46.0	50.0	
	実績値			59.0	60.6	57.5				
					目標値					
					実績値					
					目標値					
					実績値					
成果指標設定の考え方	・”市民と行政が情報を共有し”については、①「行政の情報が十分に提供されていると感じている市民の割合」で把握する。 ・“協働によるまちづくりを実践している”については、②「行政が行うまちづくり活動に継続的に参加している市民の割合」、③「地域の活動に参加している市民の割合」で把握する。									
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①行政の情報が十分に提供されていると感じている市民の割合、②行政が行うまちづくり活動に継続的に参加している市民の割合、③地域の活動に参加している市民の割合は、市民アンケートより求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	・「行政の情報が十分に提供されていると感じている市民の割合」は、平成30年度の6.6%に比べ0.7%上回り、令和元年度は7.3%であった。 ・「行政が行うまちづくり活動に継続的に参加している市民の割合」は、平成30年度の7.3%に比べ4.3%上回り、令和元年度は11.6%であった。 ・「地域の活動に参加している市民の割合」については、平成30年度の60.6%に比べ3.1%下回り、令和元年度は57.5%であった。 ・上記のようなことから、目標の達成状況としてはどちらかといえば向上した。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	・「行政の情報が十分に提供されていると感じている市民の割合」は、平成30年度目標値10.5%から令和元年度目標値12.0%と1.5%の上昇を目標としたが、令和元年度目標値に対して4.7%下回り7.3%となった。 ・「行政が行うまちづくり活動に継続的に参加している市民の割合」についても、平成30年度目標値12.0%から令和元年度目標値14.5%と2.5%の上昇を目標としたが、令和元年度目標値に対して2.9%下回り11.6%となった。 ・「地域の活動に参加している市民の割合」は、令和元年度57.5%となっており、目標値に比べ15.0%上回った。 ・上記のようなことから、一つの指標は目標値を上回ったが、二つの指標で目標を下回ったため「一部の成果指標で目標を下回った」と評価した。		

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
・令和元年度は「区長会運営事業」、「NPO・ボランティア育成事業」を中心に事業を実施した。 ・区長会運営事業においては、市と行政区との円滑なる調整を図り、多岐に渡りパイプ役として市民の声を反映させた。 ・NPO・ボランティア育成事業においては、桜川市ネットワーク協議会が中心となり、清掃活動などを行った。	・市民活動団体の会員の高齢化に伴い、活動内容が縮小されたり、辞める方が増えている。 ・今後は若年層の加入促進のため周知を行う必要がある。 ・県事務局の組織改編により、活動内容にも大幅な変更が行われているため、それに対応した事業を行う。